

研究ノート

名古屋市性感染症検査会の男性受検者の背景、
検査会を知った情報源、今後希望する HIV 検査金子 典代¹⁾, 今橋 真弓²⁾, 吉田 理加³⁾, 羽柴知恵子⁴⁾, 清枝 求美⁵⁾,
石田 敏彦⁶⁾, 横幕 能行⁷⁾¹⁾ 名古屋市立大学大学院 看護学研究科 国際保健看護学,²⁾ NHO 名古屋医療センター 臨床研究センター 感染・免疫研究部,³⁾ 愛知県立大学 外国語学部 ヨーロッパ学科,NHO 名古屋医療センター ⁴⁾ 臨床研究センター 看護部, ⁵⁾ 同 臨床検査科,⁶⁾ ANGEL LIFE NAGOYA, ⁷⁾ NHO 名古屋医療センター 感染症内科

目的: 名古屋市無料匿名 HIV・性感染症検査会 iTesting@Nagoya の男性受検者の背景、検査情報
を入手した情報源、今後希望する HIV 検査形態について、セクシャリティと HIV 検査経験別に分
析し、より効果的な検査立案のための基礎資料を得ることである。

方法: 2022 年から 2023 年に実施された iTesting@Nagoya にて、受検者への WEB 上質問紙調査
を実施した。質問項目は、年齢、セクシャリティ、国籍、居住地、HIV 検査受検経験、直近の
HIV 検査受検場所、受検時期、性感染症の既往、検査会を知った情報源、今後利用したい HIV 検
査である。全データのうち、iTesting を初めて受検した 640 名の回答に限定し、ゲイ・バイセク
シュアル男性 (Gay and bisexual men: 以下 GBM とする)、Non-GBM 別に、さらに HIV 検査経験
別に解析を行った。

結果: GBM のほうが Non-GBM より外国籍の割合が高く (7.5% vs 2.8%)、県外居住者割合が高
く (20.2% vs 6.8%)、正社員の割合が低く (69.7% vs 79.5%)、これまでの HIV 検査の受検割合が高
かった (73.1% vs 40.9%)。両群とも、HIV 検査を受けたことがない者のほうが年齢が低かった。
GBM 群では、出会い系アプリ広告により検査会を知った者が最も多く、Non-GBM 群では、名古
屋市ウェブサイト (以下ウェブサイトは WEB とする) が最も多く、市営地下鉄広告が続いた。今
後希望する HIV 検査については、GBM 群、Non-GBM 群ともに、土曜日に行われる病院・クリニッ
ク検査の希望割合が最も多く、コミュニティセンターでの検査が続いた。

結論: HIV 検査を受けたことがない者を対象とするには、若者に届くように働きかけ、さらに
セクシャリティ別の特性を考慮に入れて検査広報を図る必要がある。また土曜日に病院やクリニッ
クで行われる検査、コミュニティセンターで実施される検査にニーズがあることが示された。

キーワード: HIV 検査、性感染症、男性、情報源、検査形態

日本エイズ学会誌 27: 175-184, 2025

序 文

2020 年より始まった新型コロナウイルス感染症パンデ
ミックにより、保健所の 2022 年の HIV 検査提供件数は
2019 年と比較して 47% の減少となった¹⁾。このような状
況に鑑み、名古屋市では、新型コロナ感染症流行により浸
透した密を避ける新しい生活様式に配慮した事前予約制、
結果をオンラインで検査日翌日に告知する検査会：
iTesting@Nagoya を 2022 年度より開始した。

iTesting@Nagoya では、4 種類の性感染症 (HIV、梅毒、
B 型肝炎、C 型肝炎) の検査を無料匿名で提供している。
受検を希望する者は専用 WEB²⁾ にアクセスし、検査情報

著者連絡先: 金子典代 (〒461-0004 名古屋市東区葵 1-4-7 名
古屋市立大学大学院 看護学研究科)

2024 年 10 月 21 日受付; 2025 年 3 月 12 日受理

に関するオリエンテーションを受講し、検査受検の条件に
同意した者は、WEB 上で検査申し込みと希望時間帯の予
約が可能である。検査当日に来場した受検者は、受付、採
血、止血確認を終える。また、翌日には HIV 感染症はス
クリーニング検査結果を、梅毒は梅毒トレポネーマ抗体定
性検査と非トレポネーマ脂質抗体量検査の結果を、B 型・
C 型肝炎は血清診断の結果 (HBs 抗原, HCV 抗体) を、
特設サイトに自身の ID とパスワードを入力することで確
認することが可能である。また名古屋市において、外国籍
住民が増加しているため³⁾、WEB サイトや予約システム
において、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ベ
トナム語、インドネシア語の多言語対応、やさしい日本語
での対応を実施している。

国連エイズ合同計画 (UNAIDS) は AIDS 流行の終息を
目指し、95-95-95 戦略を掲げているが⁴⁾、日本では、第 1

の95が未達成であり^{5,6)}、感染リスクがあるが、HIV検査を受検したことがない者に検査を提供することが重要である。そのため、HIV検査のプログラム評価指標の1つに、受検者のうち、“これまでHIV検査を受けたことがない者がどのくらいいたか”が用いられる。日本では、HIVとともに生きる人々の96%は男性であり、また2021年の新規HIV感染者報告数、新規AIDS報告数のうち、男性同性間の性的接触による感染がそれぞれ70.1%、50.4%を占める¹⁾。ゲイバイセクシュアル男性 (Gay and Bisexual Men: 以下GBMとする) はエイズ予防指針⁷⁾においても「個別施策層」として位置付けられており、HIV検査を推奨すべき集団である。

日本でもGBMにターゲットをあてた検査会は、数多くの報告がある^{8~11)}。しかしセクシャリティをオープンにしている男性は、GBM限定の検査会には来場しにくい可能性もあり、また人口規模の小さい地方都市ではセクシャリティを限定した検査会を継続的に実施することは難しいことも考えられる。iTesting@Nagoyaのような、セクシャリティを限定せず実施する検査会に来場するGBM、Non-GBMにどのような背景の差があるのかを調べた国内研究は見当たらない。

今後の効果的な検査提供においては、検査ニーズがあるがHIV検査を受けたことがない層をHIV検査受検に導くアプローチの必要があり、また、行政主導の検査会の今後の有効な広報戦略、プログラム構築のためにも、何を見て検査会を知ったか、どのような形態の検査を望むかを把握することは重要である。iTesting@Nagoyaでは、行政サイト、市営地下鉄広告、広報誌、HIV検査相談マップ、GBM向けのアプリ等多くのチャンネルにより広報を行っている。しかし、さまざまな媒体を用いて検査広報を実施した場合、“HIV検査を受検したことがない者はどの広報媒体により、当該検査を知り、受検に至っているのかを明らかにした論文は見当たらない。

目 的

本研究の目的は、2022~2023年度にかけて実施した名古屋市無料匿名HIV・性感染症検査会 iTesting@Nagoyaの男性受検者の背景、検査情報を入手した情報源、今後希望するHIV検査形態について、セクシャリティとHIV検査経験別に分析し、より効果的な検査立案のための基礎資料を得ることである。

方 法

1. 調査方法

2022年6月から2023年12月にかけて名古屋市で実施されたiTesting@Nagoya計6回にて、受検者に対してWEB上での質問紙調査を実施した。質問紙調査画面は、受検者が検査結果確認サイトにアクセスし、結果閲覧のた

めのサイトにログインの後に表示され、任意で回答に協力する仕組みとした。なお、質問紙データと検査結果の紐づけは行っていない。

2. 倫理的配慮

本質問紙は無記名であり、対象者の個人特定につながる情報は含まれていなかった。研究目的、プライバシーの保護、参加は任意であることを明示し、この条件を読み同意した者に対して回答を依頼した。データ通信には、調査研究用のSSL (Secure Sockets Layer) を用いて暗号化して行った。本研究計画は名古屋市立大学大学院看護学研究所倫理委員会より承認 (番号22020-3) を受けて実施した。

3. 分析対象者 (図1)

計6回における全受検者1,736名のうち、総計1,735名が結果通知サイトにアクセスをしており、そのうち総計1,116名 (64.3%) がアンケートに回答した。各回のアンケート回答協力割合は、57.6%から76.8%であった。iTesting@Nagoyaは研究期間中、総計6回実施されており、複数回受検者も存在する。本研究では、対象者の重複を避けるため、回答者のうち、はじめてiTesting@Nagoyaを受検し、かつ性別を男性と回答した者に限定し分析を行った。

4. 調査項目

iTesting@Nagoyaの検査項目は、HIV、梅毒、B型肝炎、C型肝炎である。表1の質問紙の調査項目は、年齢、セクシャリティ、国籍、居住地、就労、HIV検査受検経験、直近のHIV検査受検場所、受検時期、性感染症の既往、iTesting@Nagoyaを知った情報源、今後利用したいHIV検査の形態である。

年齢は、29歳以下、30~39歳、40~49歳、50歳以上の4群に分け、セクシャリティは、ゲイ、バイセクシュアル、ヘテロセクシュアル、分からない・その他の4群に分け、国籍は日本、その他とした。居住地は名古屋市、名古屋市以外の愛知県、その他地域の3群に分けた。就労は、正社員、非正規・自営・パート・アルバイト、無職・学生・その他の3群に分けた。

HIV検査経験は、これまでにHIV検査を受けたことがあるかを尋ね、またHIV検査を受けたことがある者に対して、直近のHIV検査受検場所を尋ねた。検査場所は病院・クリニック、保健所、行政が実施する土曜日・日曜日の検査、イベント検査会、郵送検査からの選択を依頼した。直近の検査時期は、過去1年の間か、過去1年より前かを尋ねた。

性感染症の既往は、梅毒、クラミジア、淋病、B型肝炎のこれまでの罹患歴を尋ね、既往ありと回答した者とそれ以外の二群に分けた変数を用いた。なお、国籍、性感染症の既往の項目は2022年度の第3回から追加した項目であるため、総計が他の項目と異なっている。

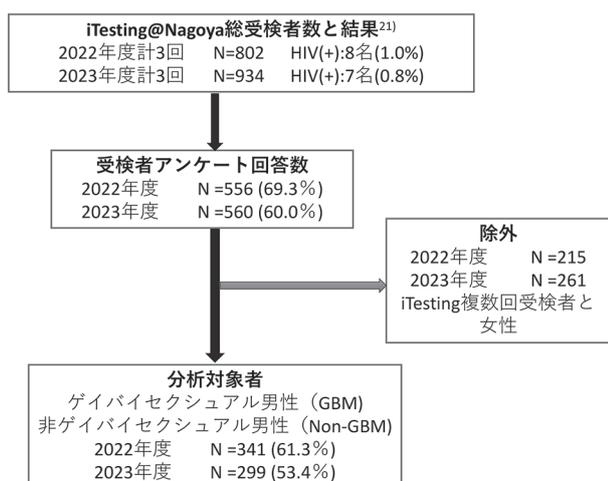


図 1 分析対象者選定までの流れ

表 1 iTesting@Nagoya における検査項目

疾患名	検査項目
HIV 感染症	HIV 抗体
梅毒	TPAb
	RPR
B 型肝炎	HBs 抗原
C 型肝炎	HCV 抗体

何を見て検査会を知ったかの情報源については、友人知人、市営地下鉄広告、市が刊行する広報誌、GBM 向け出会い系アプリ広告、HIV 検査相談マップ、名古屋市 WEB「なごや・性感染症ガイド」から最もあてはまるものを 1 つ回答を求めた。

今後受検を希望する HIV 検査の形態については、自宅で郵送検査、土曜日に病院クリニックで受検、平日夜に病院クリニックで受検、コミュニティセンターで受検の 4 つの選択肢について希望があるものに複数回答可で選択を求めた。

GBM と Non-GBM の群分けは、GBM は自認するセクシャリティをゲイ、バイセクシュアルと回答した者とし、Non-GBM はそれ以外の男性とした。これまでの HIV 検査経験別の比較は、iTesting 受検以前に HIV 検査を受けたことがある者と、iTesting@Nagoya がこれまでで初めての HIV 検査であったと回答した 2 群に分けて実施した。

5. 統計解析

GBM と Non-GBM の 2 群間で、基本属性、検査行動、性感染症既往を比較した。また、GBM、Non-GBM の 2 群間に分け、さらに HIV 検査の経験別に、基本属性、検査

行動、性感染症既往歴を比較した。同様に、GBM、Non-GBM 別に、さらに HIV 検査経験別に 4 群を設定し、iTesting@Nagoya を知った情報源、今後希望する HIV 検査の形態の集計を行った。カテゴリ変数間のクロス集計を行う際は、 χ^2 検定と Fisher の検定を用いた。統計学的有意水準は 5% を採用した。統計分析には、IBM SPSS Statistics for Windows ver 27.0 を使用した。

結 果

1. GBM と Non-GBM の基本属性、検査行動、性感染症の既往 (表 2)

GBM と Non-GBM 別にみると、セクシャリティ、国籍、居住地、就労区分、HIV 検査の受検経験、直近の検査の受検場所、梅毒、B 型肝炎の自己申告の既往歴において、有意差がみられた。GBM のほうが Non-GBM より外国籍の割合が高く (7.5% vs 2.8%)、県外の居住者の割合が高く (20.2% vs 6.8%)、正社員の占める割合が低かった (69.7% vs 79.5%)。これまでの HIV 検査の受検経験は、GBM のほうが、Non-GBM より高く (73.1% vs 40.9%)、直近の検査場所については、GBM のほうがイベント検査の利用 (13.5% vs 0.9%)、郵送検査を利用する割合 (11.3% vs 2.8%) が高かった。性感染症の既往は、梅毒は GBM のほうが Non-GBM より有意に高く (13.0% vs 5.2%)、一方でクラミジアは Non-GBM のほうが GBM より高かった (9.0% vs 15.2%)。B 型肝炎は GBM は 6.5%、Non-GBM は 0% であった。

2. GBM と Non-GBM 群別、HIV 検査経験別の基本属性、検査経験、性感染症既往 (表 3)

GBM 群では、これまでの HIV 検査経験と年齢、セクシャリティ、居住地区分、就労、梅毒、クラミジアの既往が関連していた。HIV 検査経験がない者のほうが年齢が低く、バイセクシュアルの割合が高く (39.6% vs 23.3%)、無職学生その他の割合が高かった (25.7% vs 7.3%)。HIV 検査経験がある者のほうが、HIV 検査経験のない者より梅毒 (17.0% vs 0%)、クラミジアの既往が高かった (11.6% vs 1.9%)。Non-GBM においては、これまでの検査経験と、年齢、梅毒の既往が有意に関連していた。Non-GBM においては、検査経験がない者では、年齢が低い者の割合が高かった。

3. 検査会を知った情報源 (図 2)

GBM 群では、HIV 検査経験にかかわらず、検査会を知った情報として GBM 向け出会い系アプリ広告をあげた者が 58.9~60.4% と最も高く、名古屋市の WEB が 15.8~17.8% と続いた。Non-GBM 群では、名古屋市 WEB が 39.2~48.6% と最も多く、市営地下鉄広告が 32.4~35.1% と続いた。

表 2 受検者の属性, 検査経験, 性感染症の既往

	GBM (N=376)		Non-GBM (N=264)		合計		p
	N	%	N	%	N	%	
年齢区分							
29歳以下	107	28.5	65	24.6	172	26.9	0.17
30~39歳	113	30.1	68	25.8	181	28.3	
40~49歳	79	21.0	59	22.3	138	21.6	
50歳以上	77	20.5	72	27.3	149	23.3	
セクシュアリティ							
男性同性愛者 (ゲイ)	272	72.3	0	0.0	272	42.5	-
両性愛者 (バイセクシュアル)	104	27.7	0	0.0	104	16.3	
異性愛者 (ヘテロセクシュアル)	0	0.0	203	76.9	203	31.7	
分からない・その他	0	0.0	61	23.1	61	9.5	
国籍*							
日本	185	92.5	205	97.2	390	94.9	0.03
その他	15	7.5	6	2.8	21	5.1	
居住地区分							
名古屋市	170	45.2	170	64.4	340	53.1	<0.001
名古屋市以外愛知県	130	34.6	76	28.8	206	32.2	
愛知県以外	76	20.2	18	6.8	94	14.7	
就労区分							
正社員	262	69.7	210	79.5	472	73.8	0.01
非正規・自営・パート・アルバイト	68	18.1	25	9.5	93	14.5	
無職・学生・その他	46	12.2	29	11.0	75	11.7	
これまでの HIV 検査の受検経験							
ない	101	26.9	156	59.1	257	40.2	<0.001
ある	275	73.1	108	40.9	383	59.8	
直近の HIV 検査の受検場所							
病院クリニック	41	14.9	18	16.7	59	15.4	<0.001
保健所	105	38.2	57	52.8	162	42.3	
行政日曜繁華街検査	59	21.5	27	25.0	86	22.5	
イベント検査会	37	13.5	1	0.9	38	9.9	
郵送検査	31	11.3	3	2.8	34	8.9	
その他	2	0.7	2	1.9	4	1.0	
直近の HIV 検査の受検時期							
過去1年の間	120	43.6	36	33.3	156	40.7	0.06
過去1年より前	155	56.4	72	66.7	227	59.3	
性感染症既往*							
梅毒	26	13.0	11	5.2	37	9.0	0.01
クラミジア	18	9.0	32	15.2	50	12.2	0.06
淋病	9	4.5	16	7.6	25	6.1	0.19
B型肝炎	13	6.5	0	0.0	13	3.2	<0.001

* 2022年度第3回から追加した項目のため, 回答数が他と異なる。

表 3 検査経験別の基本属性、性感染症の既往

	GBM (N=376)				Non-GBM (N=264)				p 値	
	HIV 検査経験あり (N=275, 73.1%)		HIV 検査経験なし (N=101, 36.9%)		HIV 検査経験あり (N=108, 40.9%)		HIV 検査経験なし (N=156, 59.1%)			
	N	%	N	%	N	%	N	%		
年齢区分										
29 歳以下	59	21.5	48	47.5	19	17.6	46	29.5	0.018	
30~39 歳	85	30.9	28	27.7	24	22.2	44	28.2		
40~49 歳	63	22.9	16	15.8	26	24.1	33	21.2		
50 歳以上	68	24.7	9	8.9	39	36.1	33	21.2		
セクシュアリテイ										
男性同性愛者 (ゲイ)	211	76.7	61	60.4	0	0.0	0	0.0	0.380	
両性愛者 (バイセクシュアル)	64	23.3	40	39.6	0	0.0	0	0.0		
異性愛者 (ヘテロセクシュアル)	0	0.0	0	0.0	86	79.6	117	75.0		
分からない・その他	0	0.0	0	0.0	22	20.4	39	25.0		
国籍*	N=146		N=53		N=94		N=117			
日本	138	93.9	47	88.7	93	98.9	112	95.7	0.163	
その他	9	6.1	6	11.3	1	1.1	5	4.3		
居住地区区分										
名古屋市	130	47.3	40	39.6	63	58.3	107	68.6	0.316	
名古屋市以外愛知県	98	35.6	32	31.7	35	32.4	41	26.3		
愛知県以外	47	17.1	29	28.7	10	9.3	8	5.1		
就労区分										
正社員	204	74.2	58	57.4	85	78.7	125	80.1	0.901	
非正規・自営・パート・アルバイト	51	18.5	17	16.8	10	9.3	15	9.6		
無職・学生・その他	20	7.3	26	25.7	13	12.0	16	10.3		
性感染症既往*	N=146		N=53		N=94		N=117			
梅毒	26	17.7	0	0.0	8	8.5	3	2.6	0.053	
クラミジア	17	11.6	1	1.9	18	19.1	14	12.0	0.148	
淋病	8	5.4	1	1.9	9	9.6	7	6.0	0.327	
B 型肝炎	12	8.2	1	1.9	0	0.0	0	0.0	—	

* 2022 年度第 3 回から追加した項目のため、回答数が他と異なる。

4. 今後希望する HIV 検査の形態 (図 3)

GBM 群においては、土曜日に提供される病院クリニックの検査 (48.5~55.6%) が最も高く、コミュニティセンターでの検査 (48.4~48.5%) が続いた。Non-GBM については、土曜日に提供される病院クリニックへのニーズが最も高く (45.4~56.4%)、コミュニティセンターが続いた (37.2~39.8%)。

考 察

本研究は、新型コロナウイルス感染症パンデミック中の 2022 年 6 月から 2023 年 5 月の 5 類感染症への移行後の 2023 年 12 月までの 1 年半にかけて HIV、性感染症検査体制を復旧すべく実施された iTesting@Nagoya を受検した男性受検者の特性を明らかにしたものである。

GBM, Non-GBM の比較では、GBM のほうが、愛知県外居住者やこれまでの HIV 検査経験がある割合が多く、過去にもさまざまな HIV 検査を利用している傾向がみられ、HIV 感染症への意識が高いことが示唆された。

また外国籍受検者の割合も GBM 群のほうが Non-GBM より高かった。近年外国籍の男性同性間の性的接触による HIV 新規感染者、AIDS 患者報告が一定数あり¹⁾、外国籍 GBM への検査促進は重要な課題であるが、iTesting@Nagoya のように WEB や会場で多言語対応を講じることで一定の利用がある可能性が示唆された。

梅毒や B 型肝炎の既往は GBM のほうが高かった。東海地域では、GBM を対象に、行政による HIV や性感染症検査会が長らく実施されてきており^{10,11)}、これらの検査会の利用経験が関連している可能性もあるだろう。

GBM, Non-GBM とともに、HIV 検査経験がない者のほうが、先行研究^{12,13)}と同様に年齢が若く、今後も若い年齢層を呼び込む必要性が示された。また GBM においては、HIV 検査経験がなかった者のほうが、無職学生その他の割合が高かった。無職や学生には病院やクリニックでの検査費用の負担は大きいことが想定され、本検査のような無料で提供する検査機会は重要と考えられた。GBM も Non-GBM も性感染症の既往については、HIV 検査経験者のほうが梅毒、クラミジアの既往歴が高い傾向がみられた。GBM については、先述の東海地域で実施されてきたゲイバイセクシャル男性向けの HIV 性感染症検査会の利用が影響している可能性もある。HIV 感染症以外の性感染症が診断された機会には、同時に HIV 検査を勧める重要性が言われている¹⁴⁾。しかし Non-GBM ではクラミジア、淋病、梅毒の既往があるにもかかわらず、HIV 検査機会はない者もあり、必ずしも HIV 検査勧奨がなされていない可能性がある。先行研究に示されているように^{15,16)}性感染症の診断をした際に HIV 検査を勧奨する難しさを示唆す

る結果といえよう。

本 iTesting@Nagoya を知った情報源は、GBM は GBM 向けのアプリ広告が最も多く、Non-GBM は名古屋市独自の HIV 性感染症の検査関連情報サイト、市内地下鉄の広告が続いた。GBM, Non-GBM 両群において行政の HIV 性感染症関連情報を集約したサイトの認知は一定あり、これらの傾向も参考にし、効果的な広報のための資源配分を考えていく必要がある。

今後希望する HIV 検査の形態については、セクシャリティ別に、あるいは HIV 検査経験別に解析しても、いずれも土曜日にクリニックで受検したいニーズが最も高く、またコミュニティセンター、平日夜の検査、郵送検査にも一定のニーズがあった。大阪府、岡山市、また厚生労働省研究班では、医療機関を活用した GBM 対象の検査が実施されている^{17,18)}。95-95-95 の第 1 の 95 を達成するうえでも、対象者のニーズに合わせ多様な検査の選択肢を設定する必要性は世界的にも有効な施策として示されている^{19,20)}。今後日本の陽性者の早期発見の促進のためにも、日本でも検査の選択肢を増やす必要があるだろう。

本研究の限界は、4 点である。1 点目は対象者の代表性に関する点である。本研究は名古屋市にて開催された検査受検者、かつ検査結果閲覧前に回答に協力した者に限定されており、全国の GBM, Non-GBM に結果を当てはめることはできない。検査会のサイトにアクセスし、予約まで至ったという点である程度意識が高い層に限定されている点に注意が必要である。また、本調査は、WEB サイトでの結果閲覧直前にサイト上で任意で回答依頼をしており、回答者はより早く結果を閲覧したいタイミングであるため、調査に協力的な者に限定されている可能性は否めない。今後はアンケートを依頼するタイミング、方法を工夫する必要がある。

2 点目は、サンプル数の限界である。本研究は延べ 1,116 件の受検者の回答データから iTesting@Nagoya 初受検者のみに限定して分析を行っている。そのため、GBM, Non-GBM を検査経験別に比較の精度を上げるためには、さらに多くの対象者数を確保することが必要である。

3 点目は、GBM, Non-GBM の区分の信頼性についてである。本調査では、対象者に男性と性行為経験を尋ねていない。したがって、Non-GBM の中に自身をゲイまたはバイセクシュアルとは認識していないが男性と性行為の経験があるものが含まれている可能性があり、GBM の人数が過小評価である可能性がある。

4 点目は、対象者の質問項目に使われたさまざまな用語の理解不足の可能性である。セクシャリティについて、ゲイ、バイセクシュアル、ヘテロセクシュアルの用語を用いたが、異性愛者にはなじみのない用語であった可能性は否

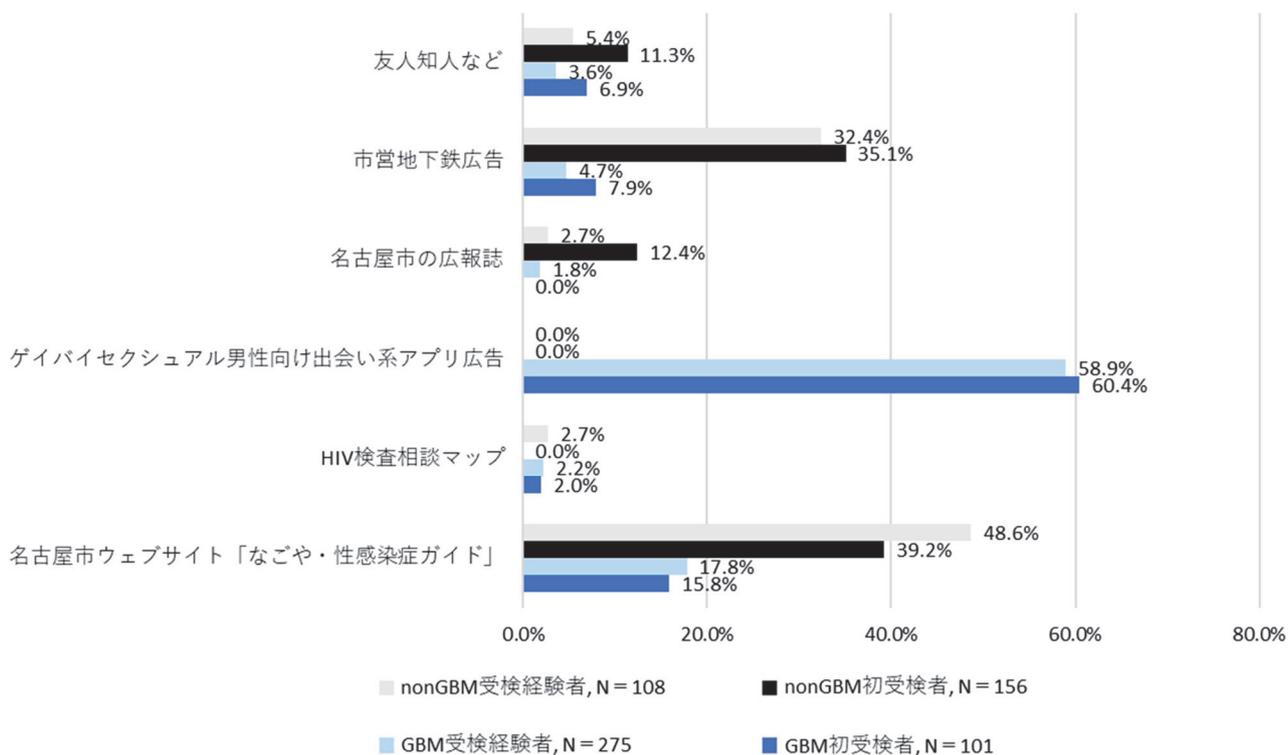


図 2 検査会を知った情報源 (1つだけ選択)

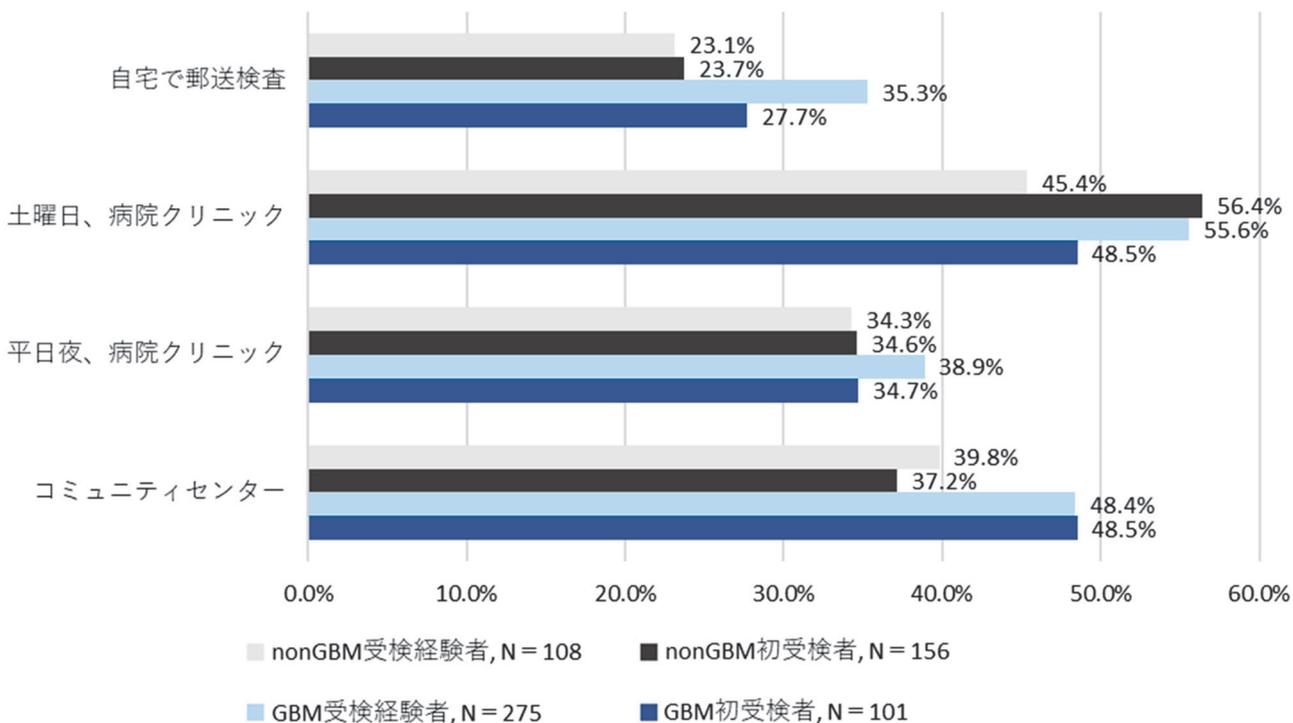


図 3 今後希望する HIV 検査の形態 (複数回答可)

定できない。詳細な解釈をつけるなど、正しく測定するための工夫が必要である。

結 語

日本はケアカスケードのはじめの95の達成が重点課題の1つであり、HIV検査経験がない男性にHIV検査を提供することは重要である。HIV検査を受けたことがないものは若い年齢層に多いため、若者に届く検査にすること、GBMには、アプリ広告の活用が検査を受けたことがない受検者層を呼び込むうえで有効であることが示された。Non-GBM群では、行政のHIVや性感染症の検査情報サイト、公共交通機関等目につく場所での広告も活用し、これまでに検査を受けたことがない者を取り込む必要性が示された。GBM、Non-GBM双方を対象にし、かつ有効な検査とするためには、セクシャリティ別の特性を考慮に入れ検査広報、展開を図る必要がある。また利便性に配慮したiTesting@Nagoyaのような検査会を契機に、その後は保健所や医療機関により提供される検査の利用につなげていくことも必要である。本調査でも多様な形態の検査へのニーズが示され、今後は、検査オプションの拡大も重要と考えられた。

謝辞

名古屋市健康福祉局健康部感染症対策課の皆さま、本研究にご協力いただいた回答者、検査会運営に携わった名古屋医療センタースタッフ、名古屋市立大学学生、愛知県立大学学生、コミュニティセンターriseを運営するANGEL LIFE NAGOYAのメンバーに感謝申し上げます。なお、本研究は、令和4~6年度エイズ対策政策研究事業「iTestingによるHIV検査体制の構築と確立のための研究(22HB1001)研究代表者：今橋真弓」の一環として実施した。

利益相反：開示すべき利益相反はない。

文 献

- 厚生労働省エイズ動向委員会：令和4年エイズ発生动向年報, 2023.
- 名古屋医療センター：iTesting@Nagoya 予約サイト. <https://www.itesting.jp/> (2024年9月27日閲覧)
- 名古屋市：令和5年名古屋市外国人住民統計【概要版】. 名古屋市, 2024. <https://www.city.nagoya.jp/kankobunkakoryu/cmsfiles/contents/0000080/80856/05-Gaiyou.pdf> (2024年9月30日閲覧)
- UNAIDS: 90-90-90 An ambitious treatment target to help end the AIDS epidemic. UNAIDS, 2014.
- Iwamoto A, Taira R, Yokomaku Y, Koibuchi T, Rahman M, Izumi Y, Tadokoro K: The HIV care cascade: Japanese perspectives. PLOS ONE 12: e0174360, 2017. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0174360>
- 田沼順子, 松岡佐織：新型コロナウイルス感染症流行後のHIV感染の発生動向とエイズ流行終結に向けた戦略. 保健医療科学 72 : 80-89, 2023.
- 厚生労働省：後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針. 平成三十年一月十八日, 厚生労働省告示第九号. 2018.
- 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「男性同性間のHIV感染対策とその評価に関する研究」(主任研究者：市川誠一)：男性同性間のHIV感染対策に関するガイドライン. 2006.
- 市川誠一：MSMにおけるHIV感染の行動科学調査および介入評価研究 3. ゲイ向け商業施設利用者における性行動および予防行動に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「MSMのHIV感染対策の企画, 実施, 評価の体制整備に関する研究」(研究代表者：市川誠一)平成23年度~25年度 総合研究報告書. pp193-235, 2014.
- 金子典代, 内海真, 市川誠一：東海地域のゲイ・バイセクシュアル男性のHIV抗体検査の受検動機と感染予防行動. 日本看護研究学会雑誌 30 : 37-43, 2007.
- 金子典代, 塩野徳史：MSMを対象にした当事者主体のHIV検査の取り組みと意義. 日本エイズ学会誌 22 : 136-146, 2020.
- Kaneko N, Shiono S, Hill AO, Homma T, Iwahashi K, Tateyama M, Ichikawa S: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan. AIDS Care 33:1270-1277, 2021.
- 金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一：地方都市在住のMSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年のHIV検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌 21 : 34-44, 2019.
- 今村顕史：HIV感染症診療マネジメント, 大阪, 医薬ジャーナル社, 2013.
- 健山正男：男性同性間性的接触によるHIV陽性者の予防啓発との接点および早期検査・受診に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「男性同性間のHIV感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究」(研究代表者：市川誠一)平成28年度総括・分担研究報告書. pp 55-65, 2017.
- 金子典代, 健山正男, 和田秀穂, 高久陽介, 宮城京子：HIV治療通院中のMSMにおける急性感染期の医

- 療機関の受診, 受診先での HIV 検査の受検, 性感染症の既往. 日本性感染症学会誌 34: 99-101, 2022.
- 17) 和田秀穂: 中国・四国における MSM に対する検査提供と介入の効果評価. 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入に関する研究」(研究代表者: 塩野徳史) 令和 4 年度総括・分担研究報告書. pp 113-127, 2023.
- 18) 塩野徳史: コロナ禍を経た MSM・ゲイコミュニティにおける HIV 感染症の予防 —その影響と有効な対策—. 保健医療科学 72: 110-118, 2023.
- 19) WHO: Integration of HIV testing and linkage in family planning and contraception services: implementation brief. Geneva. World Health Organization, 2021.
- 20) Witzel TC, Eshun-Wilson I, Jamil MS, Tilouche N, Figueroa C, Johnson CC, Reid D, Baggaley R, Siegfried N, Burns FM, Rodger AJ, Weatherburn P: Comparing the effects of HIV self-testing to standard HIV testing for key populations: a systematic review and meta-analysis. BMC Med 18: 381, 2020.
- 21) 名古屋市: なごや HIV・性感染症ガイド. <https://www.hiv-stiguide.city.nagoya.jp/itesting/> (2025 年 1 月 8 日閲覧)

Background of Male Sexually Transmitted Infections Testing Attendees, Sources of Information Knowing the Testing, and Desired HIV Testing Style in the Future

Noriyo KANEKO¹⁾, Mayumi IMAHASHI²⁾, Rika YOSHIDA³⁾, Chieko HASHIBA⁴⁾,
Motomi KIYOE⁵⁾, Toshihiko ISHIDA⁶⁾ and Yoshiyuki YOKOMAKU⁷⁾

¹⁾ Nagoya City University Graduate School of Nursing, International Health Nursing,

²⁾ Department of Infection and Immunity Research, Clinical Research Center, NHO Nagoya Medical Center,

³⁾ Department of European Studies, Faculty of Foreign Languages, Aichi Prefectural University,

⁴⁾ Clinical Research Center, Department of Nursing, NHO Nagoya Medical Center,

⁵⁾ Department of Laboratory Medicine, NHO Nagoya Medical Center,

⁶⁾ ANGEL LIFE NAGOYA,

⁷⁾ Department of Infectious Diseases, NHO Nagoya Medical Center

Objective : The objective of this study was to obtain fundamental data to facilitate more effective testing planning by clarifying the characteristics of male participants in the iTesting@Nagoya free anonymous HIV and Sexually Transmitted Infections (STI) test during the 2022–2023 period.

Methods : A web-based questionnaire was administered to participants who underwent iTesting@Nagoya. The questionnaire contained items related to age, sexual orientation, nationality, place of residence, history of HIV testing, location and timing of the most recent HIV test, history of sexually transmitted infections, source of information knowing iTesting@Nagoya, and preferences for future HIV testing. Responses were limited to 640 individuals who had taken iTesting@Nagoya for the first time. Background and sources of information on iTesting@Nagoya, and preferences for future HIV testing were analyzed by groups: gay and bisexual men (GBM) and Non-GBM; additionally, the individuals were grouped according to their experience with HIV testing.

Results : GBM group were more likely to be foreign-born (7.5% vs. 2.8%), more likely to reside outside of Aichi Prefecture (20.2% vs. 6.8%), less likely to be employed full-time (69.7% vs. 79.5%), and more likely to have previous HIV testing (73.1% vs. 40.9%) compared to the Non-GBM group. The most prevalent source of information knowing iTesting@Nagoya for the Non-GBM group was the Nagoya City website (39.2–48.6%). Regarding future HIV testing, both groups indicated a preference for being tested at clinics on Saturdays, followed by being tested at community centers.

Conclusion : HIV testing should be targeted to young people for the testing to be more effective. Furthermore, STI test promotion should consider the characteristics of different sexualities' needs. There is a need to expand testing options.

Key words : HIV testing, sexually transmitted infections, men, information sources, preferred testing